



山登如

2021年度 付中通信 10号

平和のイメージ

2021.10.22 (金) 高水高等学校附属中学校長 宮本 剛

昨年度、中3の学年行事に大きな変更がありました。本校で学年行事とは、主に学年単位で行われる校外活動を指します。中3には1学期の平和学習と2学期のオータムセミナーの2つの学年行事がありました。それを昨年度からオータムセミナーの中に平和学習を取り込む形で、2つの行事を1つに合体することにしたのです。

とにかく、行事の多い学校というイメージを校長自身も持っていて、それを教育活動の重要な1つの柱とし、実施による生徒の成長をこの肌で感じてきました。行事によっては学校創設以来続いていて、伝統と歴史を感じさせてくれるものも多いです。また、本校の教員には、附属中学校の出身者もかなりの割合でいて、行事の精選というと、自身のいろいろな思い出があふれてきて、変えること自体に心を痛める人もいます。

ま、そういうハードルもありましたが、何かを始めるためには何かを捨てなければ進めない、という教育活動の時間的な制約の中で、上述のような行事の見直しが行われたわけです。学年ごとに1回は泊を伴う行事を設定して、生徒に学年の仲間と24時間一緒に過ごす体験をさせたいという校長のかなり強い方針もあります。したがっ



て、新しいオータムセミナーは、平和をテーマにした1泊2日の校外学習を前提としてプログラムを考えることになりました。

ところが、前年度からコロナ禍が起こり、1年目から大きく躓(つまづ)きました。オータムセミナーは、なんとか校外で実施できはしましたが、とても宿泊など考えられませんでした。結果、1学期に大津島の回天記念館で実施してきた平和学習のプログラムを2学期のオータムセミナーに振り替えただけになってしまいました。それでも大津島での経験は、生徒の視野を大きく広げた貴重な学びとなったことは確かです。

それで、今年度はコロナ禍の状況を見定めながら、いろいろな案を練っていましたが、夏以降の感染者急増が予想される中、校外活動そのものも危ぶまれる状況となりました。ところが、窮地に陥ったクラス担任は苦肉の策を打ち出したのです。それは岩国市内の戦跡を巡るオータムセミナー案でした。

終戦間際の呉空襲は「この世界の片隅で」というアニメ映画でも有名になりましたが、広島に限らず、軍用施設のあった山口県内の各所に米軍の空襲がありました。この岩国の地でも岩国駅を中心に「岩国空襲」があり、その事実を掘り起こし、実際にこの空襲を間近に体験した方からもお話を聞く機会が得られたのです。

私自身、母が光工廠に学徒動員されて空襲に会い、命を落としかけたことを何度も聞かされて育ちましたが、それ以外の町で空襲があったという事実をほとんど知りませんでした。だから、生徒にとってはほんとうに意外で身近な戦争の傷跡を知る尊い時を過ごせたと思います。平和のイメージを考えるきっかけになったなら幸いです。

担任は今回、ゼロからこのプログラムを立ち上げてくれました。本当に大変だったろうと思います。ひたすら感謝です。

